



看護学科通信
はなみずき 第55号

Kurume University School of Nursing
777-1, Higashi-kushihara, Kurume City 830-0003 Japan
Tel.0942-31-7714 Fax.0942-31-7715

インド・ミテイラー地方の民族画「スーリヤムッキーの木」

看護学科
教員・事務職員
紹介

解剖学
嵯峨教授

内科学
綾部教授

母性看護学
左から：岡村助教、永田助教、田中教授、大内田助教、加藤講師、跡上准教授

老年看護学
後列左から：草場講師、新助教、前列左から：古村教授、田中(千尋)助手

小児看護学
水落助教、益守教授、藤好講師

精神看護学
左から：松島助手、舞弓准教授、福浦講師

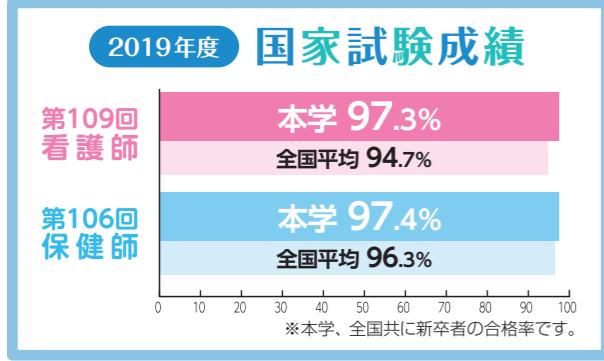
在宅看護学
渡邊講師、黒田助教

事務職員
左から：高倉係員、田中(希代子)係員、堀内課長、長田係長、山下課長補佐、石橋係員

地域看護学
左から：梶准教授、佐藤准教授、重松教授、立石講師、土井助教

基礎看護学
後列左から：宮本助教、三次助教、中山助教、前列左から：加悦准教授、森本教授

成人看護学
左から：河原田講師、松永助教、松清准教授、原教授、三橋教授、桐明准教授、姫野講師、孫田講師



オープンキャンパスのご案内

日付 2020年8月10日(日)

時間 12:00~16:00 (11:20~随時受付)

場所 久留米大学旭町キャンパス 医学部看護学科 (医学部医学科とは別棟にあります) *詳細の情報については、HPをご覧ください

実施内容

- ガイダンス ●個別相談
- 模擬授業 ●看護の先輩に聞く
- 看護体験 ●学生による学科紹介
- クリニカルスキル・トレーニングセンター体験ツアー



編集後記

皆さん、今回ののはなみずきはいかがでしたでしょうか。春からそれぞれ学年が一つ上がり、また久留米大学の学生一同さらに成長していくと思います。今年は去年よりさらに多くのことを学び、多くの知識を吸収して看護師へと一歩一歩近づいていきたいと思っています。新入生の皆さん、このはなみずきを通してこれからの学校行事について少し知っていただけましたか?これからの学校生活、楽しみつつ共に頑張っていきましょう。お読みいただきありがとうございました。

2019年度 学科通信委員

2年生	土肥 綾花	3年生	大塚 萌生	4年生	田中 麻優子	2019年度	富久 奈々
	高山 水希		久光 茉紘		田島 澄麗	卒業生	田口 桃子
	西嶋 真由		岡 奈津実		西川 ことみ		今村 友莉恵

看護学科長 三橋 睦子

人を幸せにする看護を学ぶ

27回生の新入生118名の皆さん、ご入学おめでとうございます。令和2年の春は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、入学式をしない特別な入学になりました。事態は日々刻々と変化しており、歴史的にも記憶に残る大学生活の始まりですが、必ず収束することを信じたいと思います。

さあ、皆さんには4年間の大学生活に沢山の夢や希望を抱かれています。大いに遊んで、友人と語り、バイトに精を出されることも良いと思いますが、本分は「人を幸せにする看護」を学ぶことです。全世界が危機状況にある今こそ、「がんばったら報われる」とあなたがたが思うことそのものが、あなたがたの努力の成果ではなく、環境のおかげだったこと忘れないようにしてください。あなたたちのがんばりを、どうぞ自分が勝ち抜くためだけに使わないで、恵まれた環境と恵まれた能力とを、恵まれない人々を助けるために使ってください。

どうぞ、周りに目を向け、どうい振る舞いが、人を幸せにするのかを「考え」「行動」できる人になっていただきたいと思っています。今ある環境の中で、最善の方法を工夫し、愚直に謙虚に学ばれますことを切望します。よろこそ久留米大学医学部看護学科へ

教務委員長 森本 紀巳子

目標達成に向けて着実な学修を!

新入生の皆さん、入学おめでとうございませう。看護職を目指す皆さんにとって、2020年度の大生活のスタートは、人の健康、それを護る看護職の役割と責任について、たくさんの方を考えた時期だったと思います。

どのような状況においても専門職である看護師は、看護の対象である人間のさまざまな側面を理解したうえで、看護を提供しなければなりません。ですから、看護学の基盤となる知識は重要です。大学は皆さんの勉学や課外活動について、自主性と自由を最大限保障しています。

皆さんが活発な学生生活を送られることを願っておりますが、同時に大学は学びの場であることを自覚してください。毎回の授業を無駄にすることなく着実に学修されることを期待しています。

1年生担任ご挨拶

1年生担任 跡上 富美(左)
担任補佐 岡村 光子(右)

ご入学おめでとうございます。1年生担任を務めます跡上と岡村です。近年にない特別な状況の中で、新学期のスタートを切ることは戸惑いも多かったことと思います。皆さんはこのような状況乗り越えて自分の未来へ向かわれる途上にあります。本学での勉学、学外での様々な出会いや経験を通して皆さんが自分らしい未来を創り出していけるよう皆様のペースで元気に頑張っていたいただければと思っています。私たちも、皆さんの頑張りを後押ししながら微力ですが頑張っていきたいと思っていますので、いつでも気軽に声をかけてください。

学生委員長 益守 かつき

大学で一歩ずつ着実に学ぶということ

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。令和になって初めての入学生となる皆さまを心より歓迎いたします。

昨年より新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大し、日本においても感染経路が不明な患者の増加、医療崩壊など状況は刻々と変化し、今まで経験したことがないような生活を強いられています。本来であれば、桜が満開なキャンパスで、笑顔いっぱい仲間たちと大学生活の一歩を踏み出されるのですが、COVID-19という不確かな存在に皆さん自身の生活が脅かされています。しかし、この経験を皆さんのこれからの学びに反映させ、自分や周囲の人々の健康、健康や生命を守るとはどういうことなのかをしっかりと考える4年間にしてください。

2019年度
卒業生寄贈品

解剖学 嵯峨 堅 教授

医学部の解剖学講座から移籍してきました。解剖学は、医療系の基礎科目として非常に重要です。楽しく興味をもって学んでいただければと思います。子供向けのボランティア講演もやっています。興味のある方は是非ご一緒に!

左から：嵯峨教授、松島助手、田中助手

精神看護学 松島 亜希子 助手

私自身も看護学科の卒業生です。精神看護学について皆さんと一緒に考え、学びを深めていけたらと思います。

老年看護学 田中 千尋 助手

皆さんとともに看護を探求していただけることに感謝の気持ちでいっぱいです。どうぞよろしくお願いたします。

新任教員の紹介

生活援助実習Ⅰ

N.R



今回、初めての病院実習で多くの事を学ぶことができました。

初日は、看護師さんの仕事のスピードに驚き、ついて行く事に必死でした。2日目からはバイタルサイン測定や、清拭、ストレッチャー移送をさせていただきました。最初は援助をすることに一生懸命で、患者さんへの声掛けまで気遣うことができませんでしたが声掛けを行わなければ、次に何をされるか分からず不安になるとわかり、援助の前に説明したり、患者さんの反応を見ながら声をかける必要があると思いました。

今回の実習で、看護師は、病気の知識や患者さんの情報をしっかりと頭に入れて接しており、看護師は、患者さんにとって1番身近な存在であり、患者さんを第一に考えて援助することが大切であると感じました。



西日本コ・メディカル硬式テニス大会

N.S



8月に行われた西日本コメディカル硬式テニス大会では、仲間の大切さとテニスの楽しさを実感しました。私は、大学からテニスを始めため、テニスの右も左も分らなかったのですが、先輩方が1つ1つ丁寧に教えてくださり、友人もサポートしてくれて大会を乗り切ることが出来ました。また、大会では、サーブが上手く入らなかつたり、動き方が分らなかつたりと苦戦しましたが、1勝することができ、とても嬉しかったです。これからもテニスの練習を頑張りたいと思います。



半年間の専門実習を通して

S.I

専門実習では、講義や演習で学んだことを活かし、より質の高い看護ケアの実践が求められます。始まった当初は、半年間という長い実習に不安を感じていましたが、実習を一つ一つ終えるごとに達成感を得ることができ、患者さんや看護師さんとの出会いから多くのことを学びました。時には、コミュニケーションやアセスメントがうまくいかず、きつい時期もありました。そのたびに先生方や指導者さんに優しく熱心なご指導をいただき、実習メンバーに励ましてもらい、乗り越えることができました。私が今回の実習で1番重要だと感じたことは、今までの知識を活かして看護することでスキルの向上や自信にも繋がっていくということです。後輩には積極的に先生方や指導者さんに質問し、そこで学んだことを次の看護実践に繋げるようにして行ってほしいです。

就職ガイダンスを受けて

N.A

先輩方の就職も決まり、今度は私たちが就職活動を行う時期が近づいてきました。緊張感が高まっている中、12月に就職ガイダンスを受け、就職活動に対する意識をより一層高めることができました。最初は、今後どのように就職活動を行っていくのかわからなかつたのですが、今回のガイダンスで一つずつ段階を踏み、目標を立て、早い時期から取り組んでいく必要性を理解することができました。次回の就職ガイダンスでは、履歴書の書き方や面接の練習など就職にむけての様々な準備に積極的に取り組んでいきたいです。



戴帽式を終えて

K.R

ナイチンゲール生誕200年という記念すべき年に戴帽式を迎えられたことに大きな感動と共に、改めてその責任の重さに身が引き締まる思いです。看護学科の先生方がクリスマススイブに作ってくださったというナースキャップは、一生の宝物となりました。

私たち看護学科第26回生118名は、これから臨床の場で学ばせて頂くこととなりますが、先生方や来賓の方々のお言葉は大きな支えとなり、導いてくださる感じました。患者さんに接しながら「感じ取る気持ち」と「自分でものを考える」ことを大切に、これからの自分がどうあるべきのかを常に考えていこうと思います。そして仲間と共に励まし合いながら看護を学んでいきたいと思います。

戴帽式誓いの詞

私たちは、命の大切さを理解し、患者とご家族の心に寄り添うことのできる看護師を目指します。そのために、確かな技術を身につけ、幅広い知識を深めます。そして、看護学生としての自覚と責任を持ち、何事にも挑戦し、努力します。同志を持つ118名の仲間と共に、私たちがいつも支えてくださる方々への感謝を忘れず、看護の道を歩んでいくことを誓います。



2019年度 戴帽式写真

生活援助実習Ⅱ

H.M



私たちは、12月に2週間の生活援助実習Ⅱにいかせていただきました。今回の実習では患者さんを初めて受け持たせていただきました。患者さんとのコミュニケーションなどを通して情報収集を行い、その情報をもとに患者さんに必要な援助をアセスメントし、計画、実施、評価を行いました。いざ、臨床の場に立ちまると分からないことばかりであり、知識も技術も不十分で自分の未熟さを痛感する毎日でした。しかし、先生方や看護師さん、友達に支えてもらい、実習期間を乗り切ることができました。実際に医療の現場に立ち学習する中で、自分を見つめ直し、看護職に求められる倫理的姿勢を考えることができました。3年生ではよいよ専門実習が始まるため、更に学習を進めていきたいと思います。

高齢者生活支援論 - 高齢者への理解を深める -

I.K

高齢者生活支援論の講義で、高齢者との交流と高齢者模擬体験をしました。交流では、参加された方々の様々な経験の語りから多くの困難を乗り越えてこられたのを感じました。高齢者模擬体験では、手足に重りをつけ、ゴーグルや様々な装具を身につけることで高齢者の筋力低下や視野の狭さを体感し、日常生活の細かい動作や素早い行動が難しくなることを理解することができました。



交流会に参加して頂いた方々は比較のお元気がでしたが、今後、地域や臨床で、実際に看護ケアを提供する際には、今回の経験を活かして、対象者の背景を把握し、ニーズを捉え援助することが重要だと感じました。



あのか祭

Y.H



私は、令和元年度あのか祭の看護学科実行委員長を務めました。令和になって初めてのあのか祭ということで、医学科の実行委員のみなさんを中心に様々な工夫や変化があり、あのか祭の歴史に刻まれるとともに私たちの思い出にもしっかりと残るとも楽しいものとなりました。準備期間中は、学校の課題にも追われ、きついときもありました。しかし、同じ看護学科の実行委員と励まし合いながら無事にあのか祭を終え、学業とも両立させることができました。今回のあのか祭を通して、仲間と何かを作り上げることの楽しさや達成感を感じることができました。今回の経験を生かして、今後も仲間と共に看護を学び、たくさんの思い出をつくり、大学生活を楽しんでいきたいと思います。



地域生活支援実習を通して

N.Y

4年生の地域生活支援実習では、市町村や保健所、企業や学校で実習を行いました。実習では、実施されている様々な事業に参加して、保健師の仕事の間近で見せてもらい、地域住民の方々から直接お話を聴くことができました。また、健康教育を行った際に、分かりやすい説明をすることや、一緒に考えることが、住民の方が健康な生活を送るようになるために大事なことだと感じました。実習を通して、地域や企業で働く保健師の仕事について学ぶことができました。これから働く上で、実習を通して学んだことを生かして、広い視野を持って、看護していきたいです。

卒業論文発表会

Y.T

研究Ⅲでは、まず研究計画書を作成することから始めました。計画書をもとに研究を進めるため、しっかりと計画書を作成するのが一番大変でした。また、研究を進めていくにあたって担当の先生のご指導のもと多くの文献を検索し、研究の過程を学ぶことができました。研究Ⅲは、大変なことが多かったのですが、卒業論文発表会では、研究成果を発表することができ、達成感を感じることができました。研究Ⅲを通して得た学びを看護師になって生かしたいと思います。



看護総合演習

M.M

看護総合演習では、膀胱留置カテーテルや気管内吸引、静脈血採血の技術について改めて学び、実践することができました。また、技術だけでなく周手術期の患者に対する看護ケアを学生同士でのロールプレイを通して学びを深めることができました。学生同士で行った静脈血採血では身体侵襲を伴う技術のため上手くできるか不安と緊張がありました。しかし、十分な事前練習をし、教員の指導のもとシミュレーターを使用して直前練習を行い、本番では教員のアドバイスとサポートを受けながら実施することで、安全に採血を行うことができました。総合演習を通して、明確になった自己の課題をこれからは繋げていきたいと思います。

